

10

Forum for the Beautiful Tama River
10th ANNIVERSARY

美しい多摩川フォーラム 10周年記念誌



10周年記念のご挨拶

どんなものごとにも、始まりがあれば、終わりがあります。「美しい多摩川フォーラム」も誕生して10年、ひとつの節目といえるでしょう。

どんなものごとにも、人の関係から始まります。私のフォーラムとの関わりも、偶然に転職した日本銀行で、日銀山形事務所長をしていた宮坂不二生さんとの出会いがきっかけです。彼は日銀退職後、すでに山形での実績がある「美しい山形・最上川フォーラム」の延長線上に、今度は東京を舞台にして、多摩川沿いを桜並木にする地域づくり運動「美しい多摩川フォーラム」を構想していました。彼に説得され私もその情熱の片棒を担ぐことになり、さらに青梅信用金庫の当時の森田理事長のご協力も得て、フォーラムが設立されたのが平成19年7月のことでした。

フォーラムの総会やシンポジウムで、経済学を専門とする私も発言する機会があり、その中で、ジョン・メイナード・ケインズのエッセイを紹介したことがあります。ケインズは第一次世界大戦後の大恐慌時代中に、それでも100年も経ったなら、自分たちの孫の世代には、もう経済的問題は解決しており、失業も無く、労働時間も週3日くらいで済む時代になっているだろう、と予言しました。

ケインズの予言は残念ながら外れましたが、私は100年というスパンで予測し行動する重要性を指摘しました。多摩川フォーラムも、地域の人々と共に100年という息の長い運動をすることで、自然との共生を図る運動体になりえると思います。そこで、「多摩川の歌」をつくることを提唱し、多くの協力者により実現できたことが何よりも嬉しく思っています。

作詞：谷川俊太郎、作曲：寺嶋陸也、独唱：保多由子
「多摩川の歌」(平成22年12月)は、“人々の心ゆるく結んで”これから先、多摩川と共に、100年、200年、300年と歌い続けられることを願っています。



会長
細野 助博

「多摩川に さらす手作り さらさらに 何そこの児の こ
こだ愛しき」とあるように、『万葉集』に載るこの東歌は、麻布を白くするためにさらさら流れる清流に晒している若い娘のかわいらしさを詠っています。なんと爽やかな歌でしょうか。『多摩川の歌』(作詞：谷川俊太郎)にある「迸り流れて止まぬ 多摩川はきらめくいのち」に通ずるものがあります。

美しい多摩川フォーラムは多摩川と桜をシンボルに地域活性化を産学公民の「心をゆるく結んで」生まれ、10年余りの歳月を刻んできました。その間に様々な活動を通して生き生きとした地域づくりを応援し、地域の子どもの好奇心に富んだ環境活動発表のお手伝いをし、多摩川をより美しく保つための水質調査と清掃活動にも取り組んできました。

自然の動きと脆さを知り、人間の強さと儂さを感じ、社会の温かさや冷たさを心に刻みつつこの「美しい多摩川フォーラム」の100年プランを次世代の人たちにバトンとして渡してゆく時間の旅は、時間軸上を自在に行き戻りできるのですから、何とロマンティックであり、何とクリエイティブであり、そして何とハラハラドキドキするものでしょう。

多摩地域は多摩川の流域に育ち発展してきました。この悠久の大地を生きとし生けるものの楽園にする努力が、地球温暖化や紛争の種を一つひとつ取り除いていく動きにつながっていきます。これは醜の世界を美の世界に変えることです。

「美しい多摩川フォーラム」の辿ってきた10年間は、時間の旅の素晴らしさと誇らしさを証明するものといえます。この足跡はフォーラムに参加する老若男女の皆さん一人ひとりの「生きている証し」でもあるのです。皆さんと向かう将来の旅はまだまだ続いていきます。

多摩川の歌

作詞／谷川俊太郎
作曲／寺嶋陸也

大空の高みふるさとにして
霧はまき露は地に滲み
大地の深みをみなもとにして
せせらぎは生まれ広がる
迸り流れて止まぬ
多摩川はきらめくいのち

水辺の桜に夢を託して
集う人遊ぶ子どもら
人々の心ゆるくむすんで
水青く森は緑に
渦巻いて湛えて深く
多摩川ははぐくむいのち

contents

10th ANNIVERSARY

Forum for the Beautiful Tama River

- 01 10周年記念のご挨拶
(篠塚英子名誉会長・細野助博会長)
- 02 美しい多摩川フォーラム設立までの経緯
- 03 美しい多摩川フォーラムの発足
- 04 多摩川フォーラムの理念と運営
- 07 美しい多摩づくり運動
- 08 10周年記念のメッセージ
(ダニエル・カール副会長・平野啓子副会長)
- 09 「経済」10年間の主な活動
- 12 「環境」10年間の主な活動
- 15 「教育文化」10年間の主な活動
- 18 「協力」10年間の主な活動
- 19 設立10周年記念シンポジウム
- 20 東日本大震災 復興支援プロジェクト
東北・夢の桜街道運動
- 22 10年間のあゆみ(年表)
- 27 受賞歴
- 28 設立10周年を迎えて～今後の展望
- 29 役員等一覧、編集後記

美しい多摩川フォーラム設立までの経緯

平成18年4月に縁あって日本銀行から青梅信用金庫に再就職した私は、まず青梅信金の営業基盤を取り巻く経済状況を把握するため、多摩地域の経済指標を分析したところ、人口の東京一極集中が問題視される中、東京の西多摩地区では逆に人口減少が始まっていたという事実には驚きました。人口減少社会の到来から地域経済の疲弊リスクが顕現化する中で、地域と運命共同体である協同組織金融機関の信用金庫としては、「人口減少」は将来的に死活問題です。

5年前まで5年ほど勤務していた日銀山形事務所で、山形県の人口減少を含む経済構造問題対策に携わった経験(特に、官民広域連携の県土づくり運動組織「美しい山形・最上川フォーラム」を提唱・設立等)から、多摩地域でも、「地域の活性化と自立」を目指した新しい地域づくりを考える必要があると確信し、森田昇理事長(当時)にご相談しました。ちょうど、森田理事長も、信用金庫の新しい地域貢献のあり方について考えを巡らせていたところで、多摩地域の活性化と自立のためには、信用金庫経営の原点でもある「相互扶助の精神」に基づく公民広域連携・協働による公正中立な地域づくり運動が必要との認識で一致しました。

具体的には、地域経済活性化の最大のポイントは「交流人口の増加」であるとの認識のもと、地域で最も「共感」が得られる共有財産の「多摩川」を新しい地域づくり運動のシンボルに掲げ、活動地域は400万人超の流域人口を擁する「多摩圏」としました。また、経済、環境、教育文化を運動の3

本柱に定め、経済振興だけでなく環境保全や次代を担う子どもたちへの教育を含む総合的な地域づくり運動と考えました。そこでは、流域の多様な主体(行政、個人、NPO、事業者、団体、大学等)がイコール・パートナーとして議論し、「緩やかな合意形成」に努め、みんなが連携・協働して地域づくりに邁進することにより、多摩圏民の絆を結び、地域への誇りを醸成します。以上のことを「美しい多摩川フォーラム」構想(詳しくは3~6ページをご参照)として取りまとめると共に、交流人口増加の仕掛けとして「多摩川夢の桜街道プラン」をフォーラムの夢のシンボルプランとして提起しました。

平成19年1月には、企業の社会的責任(CSR)の観点も踏まえ、フォーラムの事務局を担う部署として地域貢献部が青梅信金内に新設されました。また、フォーラムの設立を目指した準備委員会の会長には、元日本銀行審議委員で、お茶の水女子大学に復帰された篠塚英子教授にお願いしました。日銀時代に「美しい山形・最上川フォーラム」運動の理念や精神に共感をいただいたこともあり、理念が相通じた多摩川フォーラム構想にもご賛同をいただきました。

同年4月19日、金融機関が主体的に地域づくりに関わる独自性のある「美しい多摩川フォーラム構想」と「美しい多摩川フォーラム設立準備委員会」の立ち上げについて、篠塚会長、森田副会長、宮坂事務局長の3名が、日銀記者クラブにおいて対外公表しました。フォーラムの報道記事が追い風になり、その後、多摩川フォーラム設立予定日(7月21日)までに、多摩川源流・上流域の市町村はもちろんのこと、中流域の多くの市から最下流域の大田区まで17の自治体が参加されたほか、河川管理者である国土交通省京浜河川事務所、東京都にも加わっていただきました。さらに、フォーラム設立前後に、東京都市長会が多摩川流域都市協議会(会長:狛江市)を通じて、フォーラムの立ち上げ当初3年間の事業について、調査事業として多大なご支援をいただくことが決まるなど、美しい多摩川フォーラムは、「持続可能な地域社会」の実現を目指し、順調なスタートを切ることができました。

美しい多摩川フォーラム・ファウンダー
(美しい多摩川フォーラム初代事務局長)

宮坂 不二生

美しい多摩川フォーラムの発足



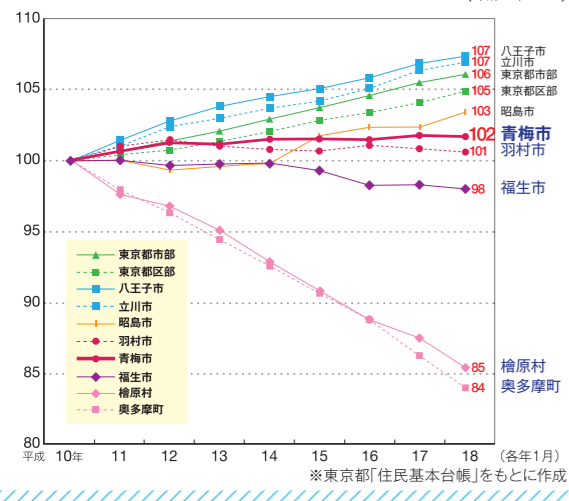
多摩川は笠取山の水源から東京湾に注ぐ138kmの大河

平成19年7月21日、設立総会において、次のとおり、役員等体制が決定されました。会長には篠塚英子・お茶の水女子大学教授(元日本銀行政策委員会審議委員)、副会長には山形弁研究家のダニエル・カール氏と森田昇・青梅信用金庫理事長(現同金庫会長)が就任しました。また、役員である運営委員には、行政サイドから、国(国土交通省)、東京都(建設局)、多摩川に直接接している殆どの自治体の首長(山梨県丹波山村、小菅村、東京都奥多摩町、青梅市、羽村市、福生市、昭島市、立川市、国立市、あきる野市、八王子市、日野市、多摩市、稲城市、府中市、狛江市、大田区)が就任しました。一方、民間サイドからは、JR東日本、京王電鉄、東京電力、東京ガス、森林総合研究所多摩森林科学園等の公益的な事業者のほか、立川商工会議所、東京都森林組合、地元の特徴ある有力企業、大学・高校、さらには、多摩川を愛するNPOや任意団体など幅広い層から選任され、監事にはNTT東日本、青梅商工会議所が就任しました。なお、顧問には、小倉紀雄・東京農工大学名誉教授、青山侑・明治大学大学院教授(元東京都副知事)が就任しました。このように、多摩川をシンボルに、官民ともに広域連携ができる役

員体制としました。因みに、設立総会の来賓である預金保険機構の永田俊一理事長(当時)から、「この運動は、フォーラムが多摩圏民の共有財産としての多摩川の受託者として、将来のための地域づくり事業を展開しているのであり、いわば公益信託にあたる」とのご挨拶を頂きました。

このフォーラムの組織には、運動の3本柱に則して三つの「活動部会」を設置しました。①地域経済活性化部会(部会長は細野助博運営委員・中央大学大学院教授)、②環境清流部会(同、福田珠子運営委員・全国林業研究グループ連絡協議会副会長)、③教育文化部会(同、下重喜代運営委員・ネイチャー&カルチャー代表)の三つです。フォーラムの会員は、それぞれの活動部会に自由に参加することができ、会員相互間で課題の設定や解決のために対等に議論を行う一方、実施が決まった事業については、ボランティア精神で自由に参加することができるようにしました。また、フォーラムの役員会である「運営委員会」は、三つの活動部会で自由に議論される課題の実現に向けて助言を行うほか、運営委員間で議論された問題を活動部会に諮問することもできるようにしました。

当時の西多摩周辺市町村の人口トレンド (指数水準 平成10年=100)



多摩川フォーラムの理念と運営

多摩川フォーラムの理念と運営

多摩川フォーラムでは、持続可能な地域社会としての「美しい多摩づくり」を目指すに当たり、全国津々浦々に存在する河川(当地では多摩川水系)に着目し、「commons(共有資源)」の概念で流域を捉えてシンボル化しました。これを、経済、環境、教育文化の三つの観点から、進化・発展する基本計画「美しい多摩川100年プラン」として立案し、地域の各主体が広域的に連携・協働する実践的な地域づくり運動のモデルとして構築しました。

特に、河川は地域の間を「流れて結んでいる」ため、それが各流域自治体でcommonsとして認識され、行政と民間の連携・協働を生む素地となりました。また、河川は「いのちの水=環境のシンボル」でもあり、持続可能な地域社会を

実現するための大きなファクターとなっています。なお、行政が参加することで、フォーラム活動の信頼性が担保されるほか、情報の宝庫としても寄与しています。

このように、多摩川フォーラムでは「経済、環境、教育文化を運動の3本柱に据え、水環境を守りながら、地域経済の活性化に取り組み、次代を担う子どもたちへの教育を通じて、地域の人々(多摩圏民)が生きがいを持って、自立した生活が送れるよう、「持続可能な地域社会」を実現すること」を標榜しています。

次に、フォーラムの運営方法ですが、まず、①フォーラムは、多摩川をシンボルに「美しい多摩づくり」を共通の目的として集まった個人、NPO、事業者・団体、大学等教育機関、行政機関が、共通のテーブルを囲み、対等な立場で議論を行う場であり、お互いに相手の立場を尊重しながら、「一緒に考えみんなで実行」を合言葉に、夢の実現や課題の解決に向け、緩やかな合意形成を目指します。②合意に達した内容は、順次、「美しい多摩川100年プラン」に盛り込み、各主体が連携・協働することにより、できることから着実に実行に移します。検討プロセスや実施結果などの情

報をホームページに積極的に公開し、議論の透明性や説明責任を果たします。③実施結果については、点検・評価を行うことにより、新たな活動に反映させ、必要に応じ計画自体も見直していく、進化・発展する計画とします。これの繰り返しが多摩川フォーラムの基本的な運営スタイルです。

なお、情報公開と情報発信のツールとして、フォーラムのホームページを事務局職員が手作りで作成しました。



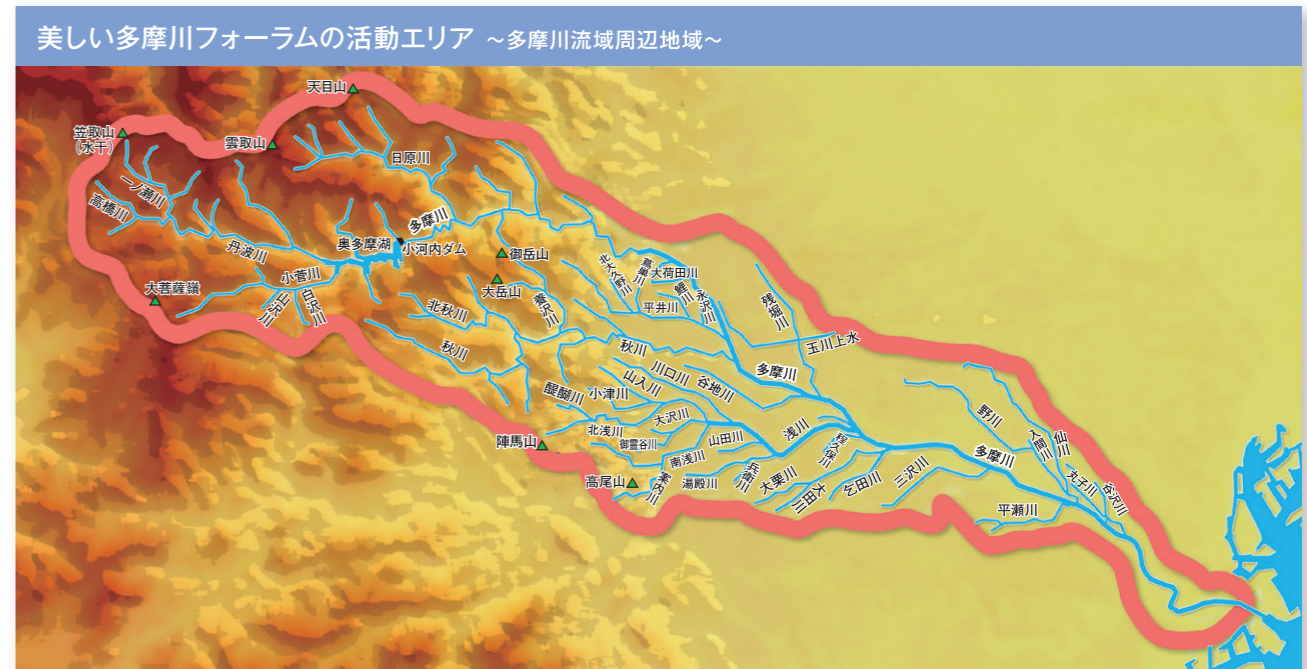
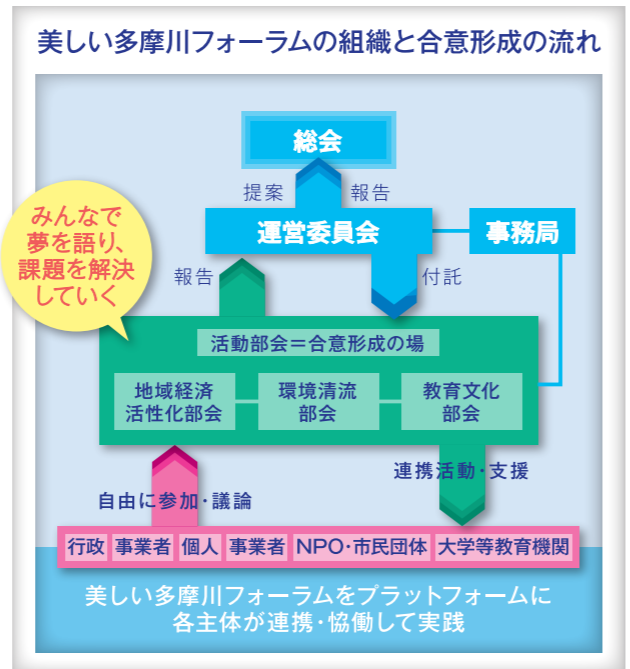
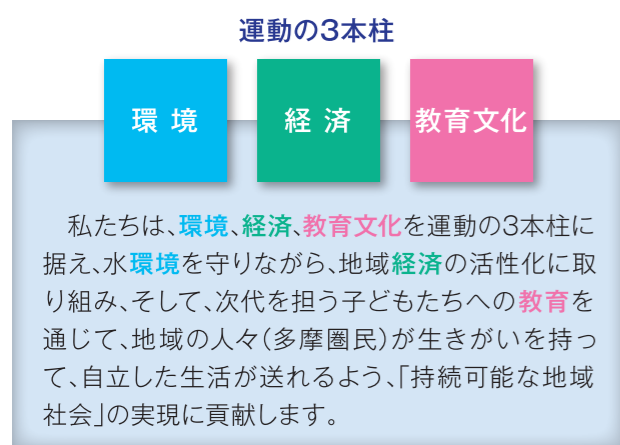
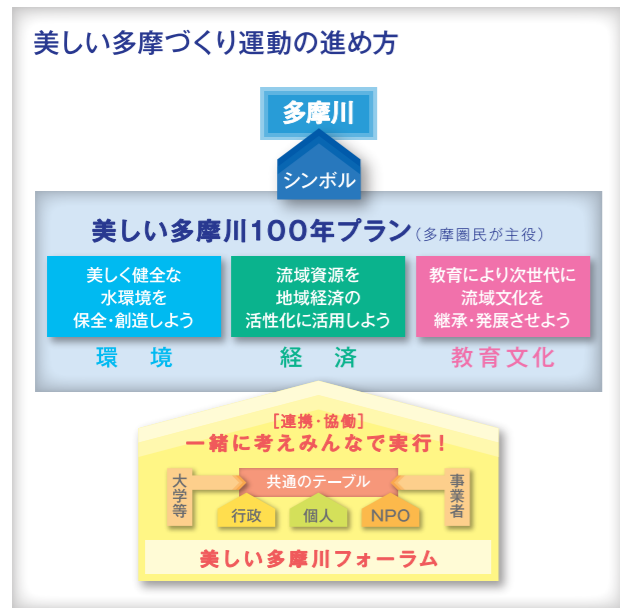
フォーラム設立当初のホームページ・トップ画面

フォーラム運動の概要

多摩川フォーラムでは、多様な価値観を持つ会員が議論を効率良く行うために、多摩川をベースに「経済」「環境」「教育文化」の三つの観点から論点を整理し、この三つの軸をフォーラム運動の3本柱として活動を展開することとしました。例えば、経済軸では、「流域資源を地域経済の活性化に活用する」考えから、多摩川の遊歩道を絡めた観光ルートづくり、青梅マラソン大会の支援。環境軸では、「美しく健全な水環境を保全・創造する」考えから、多摩川等の広域清掃・一斉水質調査や水源林の保全整備。教育文化軸では、「教育により次世代に流域文化を継承・発展させる」考えから、次代を担う子どもに対する多摩川の森の環境教育や水辺の楽校づくり、地域音楽会や美術展、

金融経済の出前講座。このように様々に計画しました。

また、こうした活動を支えていく意味でも、簡単には実現できそうにないものの、フォーラムの活動の趣旨に合った「夢のシンボルプラン」(①多摩川の遊歩道を整備し、地域づくりの担い手としての桜守を組織したうえで桜の保護と植栽を進める『多摩川夢の桜街道プラン』、②四季を通じて彩りのある多摩川沿いに展開する青梅線の「SL復活運転プラン」、③湖の中から環境を考える「奥多摩湖エコポート・プラン」、④安全にグリーンツーリズムを体感する「奥多摩湖サイクリング天国プラン」など、観光振興プラン)を設定し、その夢の実現に向かってフォーラムの運動を息長く継続的に展開することとしました。



進化・発展する現在の「美しい多摩川100年プラン」

美しい多摩づくり運動

順調にスタートした活動

多摩川フォーラム設立後まもなく、東京都教育委員会から、「地域力を活用した青少年の育成事業」の一つとして委託された『多摩川の森の環境教育』事業を、教育文化部会と環境部会共同で実施しました。この幼児教育プログラムのオリジナルは、森の国・スウェーデンで50年以上の実績があるもので、これを下敷きに身近な「多摩川流域の自然」を素材に、五感を使って、自然の中で遊ぶ楽しさや、自然の素晴らしさを体感させ、幼児のうちから生態系の仕組みや地球環境の大切さを学ばせようというものです。



川や森など自然循環を学ぶ場には高校生も参加

さらに、フォーラムの今後の地域づくりの考え方を議論する場として、昭島市で「第1回シンポジウム」を開催しました。第1部の基調講演では、山形弁研究家のダニエル・カール副会長が、『多摩川からはじまる未来のまちづくり』と題し、「まちづくりのためには環境を大切に、流域の人々が手を携え、多摩川をもっと自慢しよう！みんなで自慢できるようになれば、地域も元気になる」と参加者に訴えました。第2部では篠塚英子会長の進行のもと、ダニエル・カール、森田昇の両副会長の3人によるパネルディスカッションが行われました。その中で、森田副会長は、「フォーラムを通じて、次代を担う子どもたちに川に対する危険意識だけでなく、川の楽しみ方や正しい認識

を伝えていきたい」「このフォーラムの活動そのものが相互扶助と非営利の信用金庫本来の使命である」とし、ダニエル・カール副会長も、「フォーラムの運動が全国の良い手本となるよう、多摩川から環境面でリーダーシップを発揮していきたい」と語りました。一方、篠塚会長は、「人々に環境の意識を喚起するためにも、今あることを丁寧に行い、環境への負荷を軽減するための情報をホームページや多摩川流域の人々のネットワークを通じて伝えていきたい」とし、最後に、「100年の計で、多摩川流域から一つのモデルケースとしてフォーラムが関わり、情報を全国に発信したい」と締め括りました。

美しい多摩川100年プランの策定

美しい多摩の実現を目指して推進する、多摩圏民が主役の地域づくり運動が、かなり広範囲に及ぶことから、フォーラムの基本姿勢や意気込みを示すために、これらのプラン全体を『美しい多摩川100年プラン』と名付け、平成20年3月までに基本計画として纏めました。この100年プランは、進化・発展する計画と位置付け、夢の実現や課題の解決に向け、「緩やかな合意形成」が得られた案件は、順次100年プランに盛り込むこととしました。また、設立当初に多摩川流域の自治体の中から、「多摩川を機軸とした『美しい多摩づくり』運動に、広域的な自治体の連携活動を通じて参加・支援を行い、水環境の保全、流域地域の活性化に加え、自治体の広域連携活動の活性化、市民活動促進、市民協働の推進を図る」とのコンセプトで、フォーラムの100年プランをサポートしようという動きが起こり、多摩川流域都市協議会（13自治体で構成）より広域連携活動助成（年間500万円）を3年間に亘り受けることができました。具体的には、経済軸が「多摩川夢の桜街道プラン」、環境軸が「多摩川一斉水質調査」、教育文化軸は「水辺の楽校の一斉連携活動調査」という案件で、「基本構想段階」、「トライアル事業段階」、「基盤固めの事業段階」を経て、100年プランのベースとなる調査事業を実施しました。



※「東北復興支援運動」についての詳しい内容は20、21ページをご覧ください。

■10周年記念のメッセージ

美しい多摩川フォーラム活動に参加して

私が初めて日本の地を踏んだのは高校生時代、交換留学生として来日した時でした。幼少期から憧れていた国だったので胸を躍らせて飛行機のタラップを降りました。アメリカでは空手を習い、日本への知識を学び、意気揚々とやってきました。但し、学んだ本がちょっと古かったらしく、皆、刀を差し着物で生活していると思込んでいましたが、留学先の奈良県に向かう新幹線の中では、まず川の多さにびっくり。1本2本と数えていったのですが、あまりにも多く、数え切れなかったのです。私の生まれた米国カリフォルニア州は砂漠気候で、川は少なく水の量も少なかったのです。日本の川は綺麗でたっぷりの水を湛えていました。

平成19年に「美しい多摩川フォーラム」が発足した時に携わることが出来、嬉しく思いました。10周年を迎えて、思い起こせば多摩川で毎年色んなイベントを行ってきました。子どもや大人も一緒になって、楽しみながら多摩川クリーンキャンペーンや自然体験が出来ました。私も「炭焼き体験と水辺の交流会」や「多摩川いかだレース」に参加し、童心に帰って楽しんでいます。

山梨県の山奥で生まれた一滴が多摩地域を抜け東京都大田区へ。138kmも下り、そして海に帰っていく。春には桜街道が目と和ませ、綺麗な川には鮎も戻っている。何て素晴らしいのだろう。子どもや大人も一体となって「美しい多摩川フォーラム」を守って、また後世にバトンタッチしていかななくてはと思います。



副会長(山形弁研究者)
ダニエル・カール

100年先まで響く「語り」を!

桜の「語り」を仕事で行っていることがきっかけで、当フォーラムに関わることになりました。シンボルプラン「多摩川夢の桜街道」の「美しき桜心物語」の語り会で、毎年、春の桜の時期に寺社をお借りし、「しだれ桜」(瀬戸内寂聴作)をはじめ、開催地ゆかりの物語を「語り」でお届けしております。私の本業は、文学作品等を暗誦で芸術として伝える『語り部・かたりすと』です。「しだれ桜」は、私の生計を支えてくれる大事な「語り」作品の一つですが、商品価値のあるものを無償で提供するのもボランティアの一つのあり方だと思い、思い切ってこの作品を上演しているのです。作家の先生方の中には、ボランティア活動での作品使用を拒む方もいらっしゃいます。が、瀬戸内先生は、私の本業に支障が出ないことをご心配くださりながらも、ご快諾くださいます。花見の時期の「語り」は、事務局の頑張りもあって、観光バス旅行のプランに何回も入れていただき、交流人口増加の役目も果たしています。この手法は、当フォーラムが参画した東北復興支援運動でも活かされました。

もう一つ、多摩川流域の歴史・文化・言い伝えなどを取材し、語り仲間たちでまとめた「多摩の物語」の語り会があり、流域文化の創出を担っております。当初、行政の交付金や民間財団のご支援もいただきました。心より感謝申し上げます。

どうか、皆様とともに、100年先まで響く「語り」でありますように。



副会長(語り部、大阪芸術大学教授)
平野 啓子

経済

10年間の主な活動

多摩川夢の桜街道～交流人口増加策として創設

美しい多摩川フォーラムの「夢のシンボルプラン」としてスタートした「多摩川夢の桜街道プラン」は、人口減少時代を迎えつつあった多摩圏の地域経済活性化を、「交流人口の増加」策により目指そうとして企画した独創的な事業です。

平成21年3月、美しい多摩づくりの象徴として、多摩川流域にある桜の名所の中から特に八十八カ所を選定し、「多摩川夢の桜街道」と命名しました。同時に、観光サイト「多摩川夢の桜街道」を立ち上げ、桜の札所・八十八カ所を、味わいのある淡彩スケッチ画(野尻明美さん)と解説文で紹介すると共に、日本の花見のルーツに従い、願いごとをたずさえて巡る巡礼のように、多摩川流域にある「桜の名所・八十八カ所」を、願いごとをたずさえて訪れ、桜を鑑賞する楽しみ方を提案しました。その後、淡彩スケッチ画についてはリアルな写真(宮坂不二生初代事務局長がすべて撮影)に変更し、現在に至っています。



桜ウォーキングでガイドをつとめる大谷桜守

一方、多摩川夢の桜街道プランの中に、①地域の「桜」を守り育て、地域づくりに繋げていくために、地域の「桜守」(くにたち桜守・大谷和彦さんほか)に桜の札所の健康状態を観察してもらい、地域に情報提供する仕組みを設けたほか、②森林総合研究所多摩森林科学園に、多摩の桜の植栽調査をお願いし、多摩川夢の桜街道の学術的価値、観光的価値を検証していただき、報告書に纏めました。また、③「桜」による地域づくり事業として、桜の札所巡りや桜の語り会、桜の淡彩スケッチ原画展、桜の記念植樹式(美しい多摩川フォーラム「御岳の森」)を実施しました。この多摩川夢の桜街道の開通記念事業は大きな反響を呼び、JR東日本等と連携した、桜の札所を巡るお花見版「駅からハイキング」が実施されるなど、その後の各種桜ウォーキング・イベントとして定着しています。



八十八番
一の瀬高原・金鶏寺



八十番 金の淵公園



七十五番 龍珠院

六番
ガス橋緑地堤防二十一世紀桜並木



名作を全文暗誦する語り部・平野啓子さん

さらに、ほとバスでも、隠れた桜の名所に光をあて、多摩地域初のバスツアー商品として成功を収めており、交流人口の増加(地域経済の活性化)に寄与しています。なお、語りの第一人者である語り部・平野啓子さん(フォーラム副会長)が「桜の語り会」(瀬戸内寂聴作「しだれ桜」ほか)公演をボランティアで各地の

桜の札所(寺社)で毎春開催し、文化的な裾野も広がっています。

このように日本人が愛してやまない桜を用い、多摩川フォーラム創設時に「夢のシンボル事業」化したことで共感の連鎖が広がり、地域経済の更なる活性化に向けて今も期待が寄せられています。



桜の携帯マップ



桜のA3サイズ版マップ
裏面には桜の札所の写真を掲載



ホームページ・トップ画面

多摩川夢の桜街道

<http://www.sakurakaido.jp/>

多摩川酒蔵街道～創設

「多摩川夢の桜街道」事業が成功を収める一方、同事業が春に限定されることから、交流人口を一段と増加させるためには、他の季節で柱となり得る事業アイデアがないかとの意見がフォーラムの「活動部会」で提起されました。フォーラムの会員は多種多様であり、異業種連携の強みが発揮され、「多摩川酒蔵街道」のアイデアが浮上しました。東京・西多摩地区の多摩川水系の流域には酒蔵が5蔵あり、この酒蔵や

酒蔵が見える風景をネットワーク化できるのではないかというアイデアです。平成26年9月、秋からの新酒シーズンに向け、西多摩の五つの酒蔵と紅葉や温泉地を巡る「多摩川酒蔵街道」事業を創設しました。具体的には、5蔵の酒の飲み比べができる旅行商品を、はとバス(バスツアー)、JR東日本(お座敷列車)等がつくり、多摩川フォーラムの観光地域づくり運動の通年化に道を開きました。



JR東日本のお座敷列車「多摩川酒蔵街道」号



毎年秋には「はとバスツアー」が酒蔵や紅葉地を巡る



多摩川酒蔵街道のチラシ

多摩川カヌー駅伝大会

平成27年7月、東京都の「地域資源発掘型実証プログラム事業」(2020年の東京五輪・パラリンピックを展望して東京の魅力ある隠れた地域資源を再発見し、インバウンド誘客も含めて東京の観光振興を図る事業)の企画公募に際し、当フォーラムの「多摩川カヌー駅伝大会と多摩川の「堰」や昔話に関わる歴史・文化」の企画案が採択され、平成28年3月に「多摩川カヌー駅伝大会」とバス・モニターツアーが開催されました。多摩川には八つの堰があるため、従来、多摩川ではカヌーマラソンはできないと考えられてきましたが、フォーラムはその堰を駅伝の中継地とし、カヌー走者がたすきの代わりにカヌーを引き継ぐ方法であれば可能と考え、青梅から昭島まで17キロのコース(途中四つの堰がある)の川沿い6市(青梅市、羽村市、福生市、昭島市、八王子市、あきる野市)、青梅市カヌー協会等と連携して実施しました。

平成29年度は、11月25日に東京都市長会の助成事業として、「多摩川カヌー駅伝大会」が同様のコースで青梅市中心に川沿いの6市(青梅市、羽村市、福生市、昭島市、八王子市、あきる野市)連携により実施されました。フォーラムは協力の立場で、行政や青梅市カヌー協会等と連携しました。また、当日は、「カヌー体験教室」を無料で開催しました。これは、多摩川フォーラムが過去に子どもや大人、親子を対象にした多摩川カヤック体験教室を開催した実績から、実現したものです。



号砲一斉スタートする第一走者



多摩川を颯爽と漕ぐカヌー駅伝走者



好評のカヌー体験教室

美しい多摩川フォーラムのパネル展



フォーラムの活動や桜の札所をパネルで紹介

平成21年12月、信金中央金庫本店(東京・八重洲)1階ロビーのフリースペースに、美しい多摩川フォーラムの広報パネルが展示されました。これは、美しい多摩づくり運動を展開している多摩川フォーラムの活動ぶりを全国の地域の方々に幅広く紹介するために企画され、フォーラムの設立背景や経緯、「美しい多摩川100年プラン」とその活動内容、「多摩川夢の桜街道～桜の札所・八十八カ所」の全体マップや桜の札所の写真及び淡彩スケッチ画を展示し、半年以上に亘ってPRしました。

環境 10年間の主な活動

多摩川一斉水質調査

環境軸では、平成19年6月、「身近な水環境の全国一斉調査」と連携して多摩川一斉水質事前調査を行い、平成20年3月には、小倉紀雄副会長(東京農工大学名誉教授、全国水環境マップ実行委員会・委員長)のご指導のもと、環境清流部会が多摩川一斉水質調査に向けて成果報告書を取り纏めました。

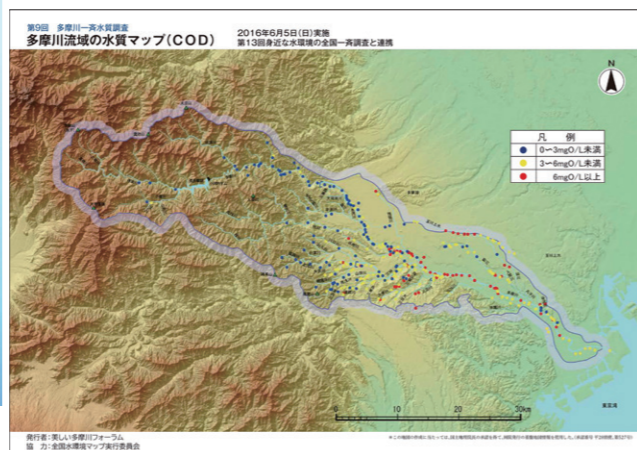
平成20年6月8日には、多摩川上流域をフォーラム事務局が直接担当した「第1回多摩川一斉水質調査」を行い、フォーラムのホームページで速報値としてCOD値(水中の有機物による汚れの度合いを示す「化学的酸素要求量」)。有機物の分解で消費される酸化剤の量を、酸素の量に換算した数値)を公表しました。さらに、11月には、「身近な水環境の全国一斉調査」と連携して得た多摩川全域の水質調査結果をまとめた「水質マップ」を公表しました。なお、当日は、ダニエル・カー

ル副会長もボランティア参加され、多摩川の採水と青梅信用金庫本店の調査会場にてCOD値の測定を行いました。平成20年度以降、毎年6月に水質調査を実施して水質マップを公表しています。最近では、渡邊勇環境清流部会長(運営委員)のご協力により、事務局が直接担当した多摩川全域75地点のCOD値に加え、電気伝導率、濁度、色度、硝酸態窒素、リン酸態リンも測定し、データを公表するなど、水質調査がさらなる発展を見せています。

また、毎年、正確な調査地点で採水ができるように、渡邊環境清流部会長がフォーラムの公式ホームページにGoogleマイマップを活用した「多摩川一斉水質調査マップ」を掲載し、パソコンはもちろん、スマホやタブレットからも、フォーラムが直接担当した採水75地点について閲覧できるようになりました。



毎年公表している多摩川流域の水質調査結果マップ(COD値)



発行所: 美しい多摩川フォーラム
編: 全国水環境マップ実行委員会



奥多摩フィッシングセンターで採水する平岡副会長(右端)、奥山アドバイザー(左端)



COD値の測定(青梅信用金庫本店の調査会場)

美しい多摩川クリーンキャンペーン

多摩川流域の自治体、企業、市民が連携したゴミ清掃活動「美しい多摩川クリーンキャンペーン」を毎年11月に実施しています。いつまでも多摩川水系の美しい水辺を維持していこうと、平成21年11月に5団体が連携して初めて実施し、直近では38団体が参加するなど、大きな広がりを見せています。清掃エリアも、当初は青梅市、奥多摩町と連携して上流域で実施していましたが、

多摩市の協力を得て中流域で、川崎市の協力を得て下流域でも実施するまでに至りました。なお、平成22年9月、財団法人小田急電鉄事業団より、「多摩川の環境浄化活動に役立ててほしい」として、30リッ



ゴミ拾いに精を出す参加者

トルのゴミ袋6,000枚(可燃用・不燃用各3,000枚)が寄贈されました。

因みに、フォーラム設立直後の平成19年8月、青梅市主催の「多摩川1万人の清掃大会」に初参加し、平成20年11月には、京王電鉄株式会社(運営委員)が実施している京王クリーンキャンペーンに共催し、美しい多摩川クリーンキャンペーンを実施する足がかりとなりました。



美しい多摩川フォーラム
(お問合せ: 0428-24-5632)

稚アユの放流事業(平成21年度で終了)

平成20年5月、小・中学生を対象に、奥多摩漁業協同組合と川崎漁業協同組合のご協力のもと、多摩川上流域の羽村取水堰上・河辺グラント下・釜の淵公園・奥多摩フィッシングセンターの4カ所にて、多摩川河口で産卵されたアユの養殖稚魚約7,000匹を放流しました。平成21年4月には、奥多摩漁業協同組合と秋川漁業協同組合のご協力のもと、羽村取水堰上・河辺グラント下・奥多摩フィッシングセンター、秋川上流域の秋川橋河川公園の4カ所にて、アユの稚魚約3,500匹を放流しました。

平成21年7月、公益財団法人とうきゅう環境財団の助成研究事業として多摩川の魚類と環境に関する書物『多摩川釣り観察 さかなが教えてくれること』奥山文弥(東京海洋大学客員教授、多摩川フォーラム・アドバイザー)著を発刊しました(株式会社つり人社)。また、これを機に、「魚類調査と環境セミナー」を、奥山アドバイザーや山崎充哲



多摩川の水環境の保全に関する啓蒙書

運営委員(ガサガサ水辺の移動水族館館長、現ふれあい移動水族館館長)をはじめ、多摩川に関する各分野で第一人者として活躍されている4人の先生を迎えて開催しました。質疑応答の場面では、「稚アユの放流事業の是非」にも議論が及び、他流域の稚魚や養殖稚魚を放流すると、遺伝子の攪乱を引き起こしたり、病気の魚が混入するといった問題提起がなされ、好評だった「稚アユの放流」は取りやめの方が良いとの専門的見解が示されました。

教育文化 10年間の主な活動

美しい多摩川フォーラム・御岳の森の誕生

平成21年2月、「桜の植樹・維持再生のモデル調査事業」の一環として、青梅市御岳にヤマザクラを植樹し、「美しい多摩川フォーラム・御岳の森」と命名しました。ヤマザクラが咲き始めた4月以降は、間伐した杉や檜を再利用しようとフォーラム事務局が一本一本皮むきし、5月には、NPO法人・日本エコクラブのご協力のもと、森林保全活動および次代を担う子どもたちへの自然環境体験を目的とする手づくりの炭焼窯を設置しました。その後、7月にNPO法人・緑の大地会のご協力のもと、自然体験教室のログハウスも完成し、8月には、「炭焼き体験と水辺の交流会」を初開催しました。



設置された手づくりの炭焼窯

美しい多摩川フォーラムの森(青梅)の誕生と育樹活動



地元の中学生を対象とした下刈りイベント

環境問題への取り組みの一つとして、近年、豊かな水の源でもある森林の荒廃が進む中、健全な森づくりを目指し、平成22年9月、東京都の「企業の森」制度に基づいた「美しい多摩川フォーラムの森(青梅)」の設置に関する協定を、公益財団法人東京都農林水産振興財団、森林所有者、青梅信用金庫、当フォーラムとの間で締結しました。

平成23年5月には、「美しい多摩川フォーラムの森(青梅)」をオープンし、広葉樹の植樹を行うなど、水源地の森の環境整備に努めています。また、地元の中学生等を対象とした下刈りイベントを開催しました。平成29年9月には、ヤマザクラの植樹イベントも実施しました。

多摩川“水”大学講座

水環境に関するリーダーを養成していこうと、小倉紀雄副会長に講師をお願いし、平成24年度から年6回の講座を開催しています。水の重要性、利用できる水資源、水循環、水質など水に関する知識を総合的に知ることにより、身近な水環境から地球環境まで保全することをみんなで考えていくという講義で、調布市、国分寺市、立川市、八王子市、府中市、小金井市で開催しました。修了生は延べ78人となり、地域のリーダーになることが期待されます。



毎回、熱弁をふるう小倉紀雄副会長

多摩川っ子

教育文化軸では、平成19年2月に、多摩川流域の「水辺の楽校等」の広域連携活動調査報告「多摩川教育河川ネットワーク構想」を取り纏めました。平成20年10月には、源流から河口まで多摩川を結ぶ水辺のネットワークを構築しようと、多摩川流域の水辺の活動団体の主な活動を紹介すると共に、子どもたちの自然体験や環境学

習を支援する多摩川教育河川新聞「多摩川っ子」を発刊しました。発刊に当たっては、水辺の楽校をはじめとする各活動団体や多摩川流域の各自治体にご協力をいただき、官民協働・地域間連携によって実現しました。第2号以降は、毎年7月に発行し、行政や教育委員会のご協力のもと、多摩川流域の小・中学校に配付しています。



水辺のネットワーク広報紙

多摩川子ども環境シンポジウム

子どもたちが夏休み等に、多摩川の環境や文化について学んだことや調べたことを自由に発表する「多摩川子ども環境シンポジウム」を毎年12月に開催しています。子どもたちだけで司会進行から発表までを行うユニークな取り組みです。第1回多摩川子ども環境シンポジウムは平成20年12月、昭島市のホテル(フォレスト・

イン昭和館)にて開催、「多摩川のここが好き!」というテーマで、多摩川流域在住の小・中学生10グループが各々、作文、模造紙、紙芝居、パソコンなどを使い、多摩川の環境について学んだことや調べたことを発表しました。第2回以降も、毎年12月に同会場で開催しており、発表内容は年々多様化し、発表方法も工夫され、子どもたちの堂々とした態度や子ども目線での発表は、大人から見ても多くの発見と感動があります。なお、毎回、山崎充哲教育文化部会副会長(運営委員)がファミリーで参加され、スムーズな運営にご協力をいただいております。



みんなの発表誌



発表者全員で記念撮影

炭焼き体験と水辺の交流会

平成21年8月、「美しい多摩川フォーラム・御岳の森」にて、多摩川教育河川ネットワークプランの中核事業である「炭焼き体験と水辺の交流会」を開催しました。ダニエル・カール副会長も、最初から最後まで子どもたちや保護者と一緒に、積極的にイベントに参加され、交流会を大いに盛り上げました。「川ってとても楽しい!」「ライフジャケットを身に付ければ安全!」「来年もぜひ参加したい!」といった子どもたちの弾む声に名残を惜しみながら、「水辺の交流会」が終了しました。川の危険性と安全性を学び、体験してもらうことにより、子どもたちの感性が豊かになるお手伝いが出来ればとの思いから、毎年8月に実施しています(ライフジャケット安全指導等・山崎充哲教育文化部会副会長、竹炭焼き指導等・川口武文NPO法人日本エコクラブ理事)。



「せーの!」で仲良くジャンプ



山崎副会長を先頭に川を渡る子どもたち

美しい多摩川フォトコンテスト(平成26年度で終了)

多摩川の自然の美しさ、多摩川にかかわる人々の素晴らしさを再発見し、多摩川を愛する心を育み、多摩川を多摩圏民の財産として次代に継承するために、美しい多摩川フォトコンテストを平成20年度から平成26年度まで毎年開催しました。募集テーマは「多摩川の風景・人々」部門、「多摩川夢の桜街道」部門とし、審査委員は、佐藤秀明さん(日本写真家協会会員)、瀬戸豊彦さん(風景写真家)、榎戸勝洋さん(多摩読売写真クラブ副会長、現フィルムアーカイブス青梅)の3名が務め、各部門で最優秀賞、優秀賞、入賞、佳作を選定、青梅市立美術館で入選作品展を開催しました(後援:青梅市、青梅市教育委員会)。なお、入選作品展は「淡彩スケッチ画でお馴染みの野尻明美さんの「多摩川の四季・淡彩スケッチ画展」と同時開催し、多摩川の四季の魅力を発信しました。



多摩川沿いの桜や自然の魅力をPR

桜守学校

平成25年3月、多摩川夢の桜街道～五十八番札所・都立小金井公園において、小金井市後援のもと、「第1回桜守学校」を開催しました。この事業は、日本人が最も愛する「桜」を地域の観光資源と捉え、その景観を維持するため、桜を守り、次代を担う子どもたちに継承していく「桜守」を育成することを目指し、毎年3月に開催しています。また、平成26年度より毎年4月に、多摩森林科学園において、桜ウォーキングと併せてミニ講座(桜守学校)を実施しています。

美しい多摩川フォト教室(平成28年度で終了)

平成26年4月、多摩川夢の桜街道～八十番札所・釜の淵公園(青梅市)にて、「美しい多摩川フォト教室」を開催しました(後援:青梅市、協力:サンケイリビング新聞社多摩本部)。このイベントは、「美しい多摩川フォトコンテスト」に、さらに多くの方に応募してもらうため、PRを兼ねて開催し、フォトコンテストの審査員を務める3人の先生方にアドバイザーとして参加していただきました。第2回は平成27年9月、第3回は平成28年11月に、それぞれ国営昭和記念公園(立川市)にて開催しました(後援:立川市、昭島市、協力:サンケイリビング新聞社多摩本部)。

「多摩川の歌」の誕生と普及活動

平成22年3月、「多摩川の歌」(作詞・谷川俊太郎/作曲・寺嶋陸也)合唱バージョンの編曲が完成し、平成23年3月には同曲のCD(独唱/保多由子、混声四部合唱/三多摩青年合唱団、女声二部合唱/三多摩青年合唱団、歌詞朗読/平野啓子、歌詞朗読(ピアノ付)/平野啓子、ピアノパート演奏/寺嶋陸也)を制作しました。レコーディングは、東京純心女子大学教授の保多由子さん(元フォーラム運営委員)のご縁で同校のホールをご提供いただき、実現しました。同年11月には多摩川流域の小・中学校840校に「多摩川の歌」のCDを配付しました。また、平成24年8月には「多摩川の歌」を公式ホームページにて視聴できるよう設定しました。さらに、フォーラムの総会や各事業活動で、三多摩青年合唱団に「多摩川の歌」を歌っていただくなど、普及活動にも努めています。

一方、平成24年2月には、多摩ケーブルネットワークの協力のもと、DVD(歌詞朗読/平野啓子、独唱/保多由子、混声四部合唱/三多摩青年合唱団、ボサノヴァ・バージョン/小野リサ、ピアノ/フェビアン・レザ・バネ)を制作し、「多摩川の歌」のPRに努めています。

声楽家の保多由子さん
ピアノ演奏 寺嶋陸也さん



三多摩青年合唱団の皆さん ピアノ演奏 寺嶋陸也さん

「多摩の物語」の発行と普及活動

平野啓子副会長とのお弟子さんたちが、多摩に伝わる言い伝えや昔話を掘り起そうと、多摩川上流域から下流域まで、現地に出向いて丁寧に取材し、その土地で出会った素敵な物語や様々な文化を作品に仕上げ、「多摩の物語」として2冊の小冊子(青梅・あきる野・奥多摩編、羽村・八王子・日野・小平・小金井・三鷹・多摩・府中・調布・狛江・大田・川崎編)に纏めました。これは、平成23年度～平成24年度まで、農林水産省関東農政局の「食と地域の交流促進対策交付金」を活用し、さらに平成26年度～平成27年度には、

公益財団法人とうきゅう環境財団の「多摩川およびその流域の環境浄化に関する調査・試験研究助成金」を活用したものです。平成26年度からは、この「多摩の物語」を地域の人々にわかりやすい「語り」で伝えていこうと、地道な語り活動を各地で展開しています。



語り部・平野啓子さんと
お弟子さんたちによる語り



「多摩の物語」の2冊の小冊子

協力 10年間の主な活動

多摩川いかだレース

平成21年7月、狛江市の夏の風物詩である「狛江古代カップ第19回多摩川いかだレース」に、フォーラムが「美しい多摩川フォーラム号」で初参加しました。以後毎年、狛江市長、ダニエル・カール副会長にご乗船いただき、毎年腕を上げています。



高橋狛江市長を筆頭に必死に漕ぐメンバー

ココエコチャリティー



寄付金贈呈式(東急百貨店本社)

東急百貨店では、平成22年度より毎年6月の環境月間に合わせて、ココからはじめる身近なエコ「ココエコチャリティー」イベントを開催し、オリジナル・グッズを販売しています。これは、東急百貨店のCSRの一環として企画されたもので、環境活動に積極的に取り組んでいる団体として多摩川フォーラムに売上金の一部を寄付し、多摩川流域周辺の環境浄化活動に貢献しようというものです。フォーラムでは、いただいた寄付金を「多摩川一斉水質調査」などの多摩川環境保全活動に役立てています。

たまりバー 50キロ命名記念・RUN&WALK



河津章夫実行委員長を先頭にスタート!



寄付金贈呈式(大田区役所区長室)
松原大田区長(左から5人目)

たまりバー50キロ命名記念・RUN&WALK実行委員会では、平成20年度より、毎年10月に「たまりバー50キロ命名記念・RUN&WALK」を開催しています(大田区・丸子橋をスタートして、ゴールは羽村市役所)。このイベントは、多摩川フォーラムの「多摩川夢の桜街道プラン」の趣旨に賛同された大田区議会議員をはじめとする大田区民有志の皆様が、「たまりバー 50キロ」の開通を記念して、「RUN&WALK」のイベントを開催し、健康の増進を目指しながら、桜の植樹の募金活動も行うもので、フォーラムも参加しています。なお、集まった寄付金は、後日、大田区長室にて寄付金の贈呈式が行われ、フォーラムの「多摩川夢の桜街道」事業に役立てています。

祝 辞

大田区長 松原忠義

美しい多摩川フォーラム設立十周年おめでとうございます。多摩川堤百万本桜植樹の夢の実現に向け、中学生や地域の方々を交え、多摩川沿いを走り歩きながら同時に募金活動を行う取組みは、大変意義深いものと思います。

本活動を通じ、多摩川が皆に愛され、豊かな自然と美しい景観を持つ東京の名所であり続けることを願っております。

今後の本活動の益々の発展と、ご尽力されている皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

美しい多摩川フォーラム 設立10周年記念シンポジウム

平成29年7月29日、美しい多摩川フォーラム設立10周年記念シンポジウムを、昭島市のフォレスト・イン昭和館にて開催しました。冒頭で、ドローンを活用した多摩川空撮映像を初公開しました。春の桜の開花に合わせて延べ3日に亘り撮影し、多摩川の源流から河口まで8つの堰にもスポットを当てた内容であり、全長138kmの魅力が鳥の目線でまとめた約14分の映像です。また、記念のパネルディスカッションを行い、これからの10年に向けて弾みをつけました。

なお、パネルディスカッションは、「これまでの10年とこれからの10年」と題し、細野助博会長の進行のもと、篠塚英子名誉会長、小倉紀雄副会長、平野啓子副会長、国土交通省京浜河川事務所長の服部敦アドバイザーの5人で行われました。ディスカッションの冒頭では、フォーラム創設者であり、初代事務局長であった宮坂不二生さんのビデオメッセージが放映され、当フォーラムが設立された経緯が丁寧に説明されました。



細野助博
会長



服部敦
アドバイザー



篠塚英子
名誉会長



小倉紀雄
副会長



平野啓子
副会長

まず篠塚名誉会長から「大きな志のある人がいて、それを理解する人がいれば何かができる」との発言があり、設立当初を振り返りました。平野副会長は、「この10年はあくまで一つの節目であり、フォーラムの基礎体力をもっとつけた方がよい。今後、基礎体力をどう付けていくかを皆さんと一緒に考えたい」とし、小倉副会長は「流域各地で活動している様々なグループとゆるく連携し、各地で実施されている活動をフォーラム活動の一環として考えると、少し輪が広がって

いくのではないかと語りました。一方、服部アドバイザーは「フォーラムと一緒に活動し、多摩川の魅力さをさらに発信していきたい」とし、篠塚名誉会長は、大局的見地から、「フォーラムはヨコ社会の成功例。タテ社会とは異なり、非常にゆるい社会で繋がっている。この成功例をさらに発展させていくためには、人材がポイント」と語り、最後に、細野会長は、「時には脇役に、時には主役になれるような、弾力的な思考をもって活動ができる人材育成が必要である」と締め括りました。

東日本大震災復興支援プロジェクト 『東北・夢の桜街道運動』

1. 美しい多摩川フォーラムの 東北復興支援への取り組み経緯

平成23年3月11日に東北地方を襲った東日本大震災は、直接の被災地だけでなく東北各地への観光客の大幅減少をもたらし、東北全域に深刻な社会的・経済的ダメージを与えました。多摩川フォーラムでは、同年3月開催の運営委員会で直ちに東北復興への支援方法について議論し、5月開催の総会において、地域づくり団体としてふさわしい支援方法を運営委員会にて取りまとめることを決議しました。

支援方法としては、観光客の激減を目の当たりにし、①東北全体に観光客が足を運んでいただけるような「交流人口増加」の仕組みが必要との認識のもと、東北が日本有数の桜の名所を多数抱える点に着目し、「多摩川夢の桜街道」の仕組みを活用する一方、②多摩川フォーラムの先輩組織である「美しい山形・最上川フォーラム」(山形県山形市、4,200会員、会長・柴田洋雄氏)に声がけし、両フォーラムが連携して10年間復興に取り組む、という枠組みが7月開催の臨時運営委員会において承認されました。これが東北復興支援の「東北・夢の桜街道プロジェクト」です。最上川フォーラムの顧問でもあった吉村美栄子・山形県知事の力添えもあって、東北6県を含む連携支援体制の整備も進み、震災半年後の10月1日には、「東北・夢の桜街道プロジェクト」が、東京と山形で同時に公表されました。その後、同プロジェクトが民間主導の公民連携・協働による東北復興支援運動である点に注目した国土交通省から助言もあり、同プロジェクトを一段とパワフルな運動とするべく、両フォーラムを母体に「東北・夢の桜街道推進協議会」(細野助博会長、柴田洋雄副会長、宮坂不二生事務局長、事務局:青梅信用金庫地域貢献部)を12月1日に創設、国からの支援も得て、官民広域連携の東北復興支援組織になりました。

2. 東北復興支援プロジェクト 『東北・夢の桜街道運動』とは

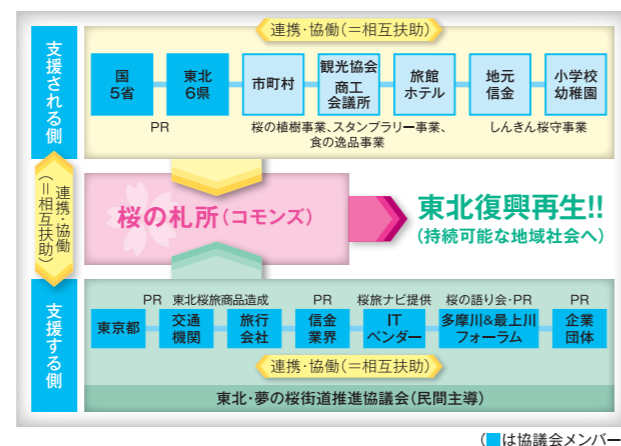
東北復興のために行政と民間が広域で連携・協働する『東北・夢の桜街道運動』は、日本人にこよなく愛され、かつ東北に広く点在する「 commons (共有資源) 」としての美しい「桜」を東北復興のシンボルに掲げ、新たに選定した「桜の札所・八十

八カ所」を東北復興への祈りを捧げながら巡るというもので、交流人口増加(=観光振興)による東北復興支援運動です。毎年、事業内容が多岐に亘ってきたため、多摩川フォーラム同様、「経済」「環境」「教育文化」を運動の3本柱に据えて推進しています。現在、協議会には、国(国土交通省はじめ5省2庁)、東北6県、東京都の行政、公共交通機関、旅行会社、情報通信会社、信用金庫業界、生・損保等金融機関、民間企業・団体など63会員が参加しており、「共感」の連鎖により相互扶助の支援の輪が広がっています。



3. 東北・夢の桜街道運動の展開 (国内誘客→インバウンド誘客)

当協議会では、東北・夢の桜街道運動を国民運動として10年間推進する旨宣言し、近景(当初2年間)、中景(3~4年目)、遠景(5~10年)として大まかな事業計画を組み、PDCAサイクルで回すことにしました。特に、当初2年間は、①広報事業(公式ガイドブック発刊、公式ホームページ開設、ポスター・携帯マップ・チラシ制作、パネル展、ルーシー・ウォーカー監督の感動的な映画「津波そして桜」上映会、シンポジウム開催等)、②国内観光誘客事業(バス・鉄道・航空機を利用した旅行商品造成、桜の語り会開催、桜の札所スタンプラリー実施、桜の札所ルートガイドシステム開発等)を軸に運動を展開しました。当初は国内誘客を中心に事業展開を図りましたが、東北への観光客の回復が伸び悩みをみせたことから、3年目からは、増やせば増やしただけ経済効果が上がる訪日外国人



観光客(インバウンド)誘致事業にも取り組みました。

政府は2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会に向け、2,000万人のインバウンド誘客目標を掲げましたが、当協議会でもインバウンド戦略として、大震災に際して多額の義捐金をお寄せいただいた「台湾」にターゲットを絞り、平成26年の春には、台湾の地下鉄1編成6両の車体の内外にラッピング広告を施した「東北・夢の桜街道」号を1か月間走らせる「春の訪日プロモーション事業(観光庁)」に協力したところ、桜の愛好家が多い現地で大きな反響を呼び、インバウンドが大幅に増加しました。



4. 東北復興支援の通年化 (『東北酒蔵街道』等の導入)

春の東北・夢の桜街道運動の各事業が成果を上げる一方、他の季節でも東北復興支援事業を展開できないかとの声が寄せられる中、平成27年10月に山形県で開催された「東北・桜サミット」で、『東北酒蔵街道』プロジェクトを発表しました。①和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを踏まえ、日本の食文化として密接な関係にある「日本酒」に着目、国内でも有数の酒処である東北の「酒蔵」を、秋からの「新酒」シーズンに紅葉や温泉を満喫しながら巡る『東北酒蔵街道』を創設しました。同プロジェクト参加の100酒蔵、紅葉・温泉スポットを調査し、平成28年4月より公式ホームページや携帯マップで紹介すると共に、酒蔵巡りをサポートするスマホ版「東北桜旅・酒蔵旅の無料ナビ・アプリ」も開発しました。さらに、②東北復興支援運動に夏・冬を含めた通年化を図るべく、日本の四季の中でも特に美しい東北の四季を表現する『四季「感動」の東北往還道』(春の桜街道、夏の祭り街道、秋の酒蔵街道、冬の雪見街道)構想を「東北桜サミット」で発表しました。東北の桜、祭り、酒蔵、雪はカラーコンテンツです。これを縦糸に、温泉、和食、紅葉、新緑、城郭、寺社、川下り、山岳、パワースポットなどの既存の伝統的な観光資源を横糸に「編み込む」と、ストーリー性のある魅力的な体験型の東北観光周遊ルート、即ち『東北往還道』が縦横に出来上がります。インバウンドが美しい東北の四季を一つでも体験



すれば、他の季節も求めてリピーターになることを期待しました。以上が「東北・夢の桜街道運動」における「経済」軸の概要ですが、このほか、「環境」軸では、津波被災地で桜の植樹を毎年実施したほか、「教育文化」軸では、東北地区27信用金庫の殆どが、しんきん桜守制度のもと、小学校・幼稚園等と連携し、郷土愛を育む「子ども対象の桜の絵画コンクール展」を毎年開催したところ、「次代を担う子どもが地域を元気にする」として、市民や教育関係者から高いご評価をいただきました(平成29年度は318校・園、12,077名が自由応募)。

5. 今後の展望

東日本大震災発生後7年が経過する中、人々の震災に対する「記憶の風化」が進んでおりますが、東北復興という社会的かつ長期的な企業の取り組みにおいては、従来からのCSR(企業の社会的責任)という考え方だけでは、利益を追求する企業として、「支援の継続」に限界があります。このため、協議会では、新たにCSV(共通価値の創造:Creating Shared Value)という「社会的課題の解決と利益の創出を両立させる企業行動」の経営理論を取り入れ、東北復興支援運動を息長く継続します。このように、協議会では、今後も、官民広域連携・協働推進(=相互扶助)の精神で真摯に取り組むほか、協議会をプラットフォームに、協議会メンバーがコンセプトや情報を共有して「共創」する「オープン・イノベーション」などにより、東北復興支援に多面的に寄与し、『ソーシャル・イノベーション』を目指します。

なお、事務局を務めていた青梅信用金庫が、6年の復興支援が経過した平成29年7月に、東北復興支援で一定の役割を果たしたとして事務局を返上しましたが、その後、信用金庫業界のご支援を得て運動を継続しております。

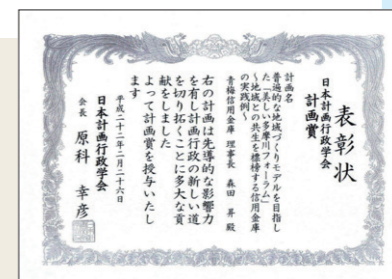
受賞歴

平成28年度	4月 6日	・第7回「美しき桜心の物語」の語り会(大田区密蔵院)を開催
	8日	・リビング多摩との共催で、「桜の礼所めぐり・羽村～福生コース」を開催
	13日	・リビング多摩との共催で、「桜の礼所めぐり・高尾コース」を開催
	29日	・東北・夢の桜街道推進協議会主催の第5回「美しき桜心の物語」の語り会(秋田県仙北市)を共催
	5月 27日	・第1回多摩川「水」大学講座を開催
	28日	・美しい多摩川フォーラム・平成28年度総会を開催 ・多摩川流域11自治体交流イベントラリーに協力(～11/13)
	6月 4日	・「第44回調布市環境フェア」に出展協力
	5日	・第9回多摩川一斉水質調査を実施
	17日	・第2回多摩川「水」大学講座を開催
	30日	・第1回地域経済活性化部会を開催
7月 7日	・多摩川教育河川ネットワーク新聞「多摩川っ子」第9号発刊	
12日	・第1回教育文化・環境清流合同部会を開催	
15日	・第3回多摩川「水」大学講座を開催	
17日	・狛江古代カップ第26回多摩川いかだレースに「美しい多摩川フォーラム号」で参加	
23日	・第4回多摩川カヤック体験教室を青梅市釜の淵にて開催	
27日	・東北・夢の桜街道推進協議会・平成28年度総会(若手県盛岡市)に協力	
8月 4日	・東急百貨店よりオリジナルマルチケース贈呈	
23日	・第9回炭焼き体験と水辺の交流会を青梅市御岳の森にて開催 ※荒天のため中止	
9月 1日	・第3回「多摩川酒蔵街道」のキャンペーン開始	
16日	・第4回多摩川「水」大学講座を開催	
23日	・東急百貨店本店にて「ココエコ・チャリティー」寄付金が贈呈	
10月 8日	・第9回たまりバー50キロ・RUN & WALKに参加(大田区～羽村市)	
12日	・第2回教育文化・環境清流合同部会を開催	
20日	・第2回地域経済活性化部会を開催	
21日	・第5回多摩川「水」大学講座を開催	
11月 1日	・第9回多摩川一斉水質調査報告書発行	
2日	・第1回運営委員会を開催	
5日	・第49回青梅産業観光まつりにブース出展協力(～6日)	
11日	・大田区長よりフォーラムへ寄付金贈呈 ・第6回多摩川「水」大学講座を開催(最終回)	
12日	・第8回美しい多摩川クリーンキャンペーンを川崎市で初開催(連携団体:川崎市、大田区、京浜急行電鉄株、富士通株、富国生命保険相互会社、アルペン株、青梅信用金庫)	
19日	・第8回美しい多摩川クリーンキャンペーンを多摩市で開催 ※荒天のため中止(連携団体:多摩市、京王電鉄株、株東急百貨店、近畿日本ツーリスト株、夫和ハウス工業株、キャリア・ママ株、三井住友海上火災保険株、青梅信用金庫)	
25日	・第3回美しい多摩川フォト教室を開催	
26日	・第8回美しい多摩川クリーンキャンペーンを青梅市御岳で開催(連携団体:奥多摩町、青梅市、御岳登山鉄道株、日本フィルタ工業株、株JTBコーポレートセールス、東日本電信電話株、NTTコムウェア株、青梅信用金庫)	
30日	・ドローンを活用した多摩川の空撮現場の事前調査①	
12月 6日	・ドローンを活用した多摩川の空撮現場の事前調査②	
10日	・第9回多摩川子ども環境シンポジウムを開催	
16日	・第1回三部会合同部会を開催	
28日	・ドローンを活用した多摩川の空撮現場の事前調査③	
1月 26日	・第2回運営委員会を開催	
2月 18日	・「多摩川酒蔵街道」号で行くお産敷列車の旅に企画協力	
19日	・第51回青梅マラソン大会にフォーラムとしてブース出展	
22日	・第2回三部会合同部会を開催	
3月 11日	・東北・夢の桜街道推進協議会主催の「東北復興支援シンポジウム」を共催	
14日	・第3回運営委員会を開催	
30日	・第8回桜守学校を都立小金井公園にて開催	
4月 5日	・リビング多摩との共催で、「く」にたち桜守と「多摩川夢の桜街道」を歩こう!羽村コース」を開催	
8日	・第8回「美しき桜心の物語」の語り会(日の出町寶光寺)を開催	
12日	・リビング多摩との共催で、「く」にたち桜守と「多摩川夢の桜街道」を歩こう!高尾コース」を開催	
15日	・東北・夢の桜街道推進協議会主催の第6回「美しき桜心の物語」の語り会(山形県上山市)を共催	
5月 19日	・第1回多摩川「水」大学講座を開催	
27日	・美しい多摩川フォーラム・平成29年度総会を開催 ・多摩川流域11自治体交流イベントラリーに協力(～11/4)	

平成29年度	6月 3日	・「第45回調布市環境フェア」に出展協力
	4日	・第10回多摩川一斉水質調査を実施
	16日	・第2回多摩川「水」大学講座を開催
	29日	・第1回教育文化・環境清流合同部会を開催
	7月 5日	・多摩川教育河川ネットワーク新聞「多摩川っ子」第10号発刊
	6日	・第1回地域経済活性化部会を開催
	16日	・狛江古代カップ第27回多摩川いかだレース大会に「美しい多摩川フォーラム号」で参加
	21日	・第3回多摩川「水」大学講座を開催 ・東北・夢の桜街道推進協議会・平成29年度総会(福島県福島市)に協力
	25日	・ドローンを活用した多摩川空撮映像が完成
	29日	・美しい多摩川フォーラム・設立10周年記念シンポジウムを開催
8月 22日	・第9回炭焼き体験と水辺の交流会を青梅市御岳の森にて開催	
23日	・多摩川流域魅力体験事業に関する事業運営連絡協議会第1回会議に協力	
9月 1日	・第4回「多摩川酒蔵街道」のキャンペーン開始	
9日	・「多摩の物語」の語り会(世田谷区)を開催	
15日	・第4回多摩川「水」大学講座を開催	
23日	・美しい多摩川フォーラム・設立10周年記念「桜の植樹式」を開催	
25日	・多摩川流域魅力体験事業に関する事業運営連絡協議会第2回会議に協力	
29日	・東急百貨店本店にて「ココエコ・チャリティー」寄付金が贈呈	
10月 5日	・第2回教育文化・環境清流合同部会を開催	
11日	・第2回地域経済活性化部会を開催	
20日	・第5回多摩川「水」大学講座を開催	
31日	・多摩川流域魅力体験事業に関する事業運営連絡協議会第3回会議に協力	
11月 1日	・第10回多摩川一斉水質調査報告書発行	
3日	・第50回青梅産業観光まつりにブース出展協力(～4日)	
9日	・第1回運営委員会を開催、フォーラムシンボルマークが決定	
11日	・第9回美しい多摩川クリーンキャンペーンを川崎市で開催(連携団体:川崎市、京浜急行電鉄株、富士通株、富国生命保険相互会社、青梅信用金庫)	
17日	・第6回多摩川「水」大学講座を開催(最終回)	
18日	・第9回美しい多摩川クリーンキャンペーンを多摩市で開催 ※荒天のため中止(連携団体:多摩市、京王電鉄株、株東急百貨店、近畿日本ツーリスト株、株キャリア・ママ、アルペン株、三井住友海上火災保険株、青梅信用金庫)	
21日	・第9回美しい多摩川クリーンキャンペーンを青梅市御岳で開催 ※荒天のため中止(連携団体:奥多摩町、青梅市、御岳登山鉄道株、日本フィルタ工業株、株JTBコーポレートセールス、東日本電信電話株、NTTコムウェア株、夫和ハウス工業株、基澤証券株、日本アジア証券株、青梅信用金庫)	
25日	・大田区長よりフォーラムへ寄付金贈呈	
25日	・多摩川流域魅力体験「多摩川カヌー」駅伝大会2017&ウォークラリーに協力	
12月 9日	・第10回多摩川子ども環境シンポジウムを開催	
14日	・第1回三部会合同部会を開催	
19日	・多摩川流域魅力体験事業に関する事業運営連絡協議会第4回会議に協力	
1月 22日	・多摩川流域魅力体験事業に関する事業運営連絡協議会第5回会議に協力	
25日	・第2回運営委員会を開催	
2月 21日	・Instagram投稿開始	
22日	・第2回三部会合同部会を開催	
3月 15日	・第3回運営委員会を開催	
28日	・第10回桜守学校を都立小金井公園にて開催	

日本計画行政学会「計画賞」優秀賞を受賞

平成22年2月26日、日本計画行政学会計画賞の優秀賞を受賞しました。青梅信用金庫は、普遍的な地域づくりを目指した「美しい多摩川フォーラム～地域との共生を標榜する信用金庫の実践例～」で、多摩地域の経済活性化と環境の保全・教育への積極的な活動が評価されました。



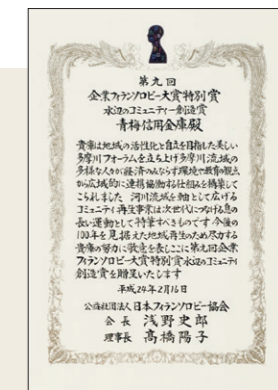
表彰状



記念の盾

日本フィランソロピー協会 第9回「企業フィランソロピー大賞」特別賞を受賞

平成24年2月16日、第9回「企業フィランソロピー大賞」において、美しい多摩川フォーラム(公民連携・協働推進による人々の心を緩く結んだ地域づくり)の支援活動が、最高賞に次ぐ特別賞を受賞しました。この賞は、企業の本業を活かした全国の社会貢献活動を顕彰するものです。



表彰状

全国信用金庫協会 第15回 信用金庫社会貢献賞「会長賞」を受賞

平成24年6月20日、「官民広域連携による地域づくりの取り組み」が、「信用金庫社会貢献賞」の最高賞である『会長賞』を受賞しました。

青梅信用金庫では、地域の活性化と自立を目指して平成19年に官民により設立された「美しい多摩川フォーラム」(事務局・青梅信用金庫)を通じ、『CSR(企業の社会的責任)に係る負担は、コストではなく地域への投資である』との考え方のもと、地域を流れる多摩川を commons(共有財産)と捉え、流域の市民、NPO、企業、大学、行政等と連携し、持続可能な地域社会の実現に努めています。



表彰式でトロフィーを受け取る 青梅信用金庫 森田理事長(現会長)

2012年度「日本金融通信社・ニッキン賞」受賞

平成25年2月22日、2012年度「日本金融通信社・ニッキン賞」を受賞しました。この賞は、美しい多摩川フォーラムが推進してきた「多摩川夢の桜街道事業」をモデルに立案された東北復興支援の取り組み(東北・夢の桜街道運動)が高く評価されたものです。毎年、金融業界の諸活動の中から1件が選ばれる最高賞です。



左: 記念の盾を掲げる 青梅信用金庫 森田理事長(現会長)

美しい多摩川フォーラム設立10周年を迎えて～今後の展望

多摩川フォーラムは現在、1,500会員を超え、国(国土交通省)や東京都をはじめ、多摩川流域25の自治体が行政会員として参加する一方で、民間からは公益的な企業、一般企業、団体、NPO、大学、市民、子どもまで幅広い層が参加しています。また、3本柱に則して組織された「活動部会」では、緩やかな合意形成を目指して民主的な議事運営が行われ、合意された事業は、会員の緩やかな連携のもとで実施されます。このように、多摩川フォーラムは会員が連携・協働して活動していくための「プラットフォーム」として機能しています。設立当初、多摩川流域都市協議会や東京都教育委員会より温かいご支援をいただき、現在の3本柱(経済・環境・教育文化)の各事業の基盤を築くことができ、今日のバランスがとれた地域づくり運動の実践につながっています。

美しい多摩づくり運動は100年を見据えた大きな運動です。これまでの10年間に試行錯誤を繰り返しながらも事業活動は定着し、安定稼働しているように見えますが、敢えて「これからの10年」を新しい目線で展望してみましょう。

まず、交流人口増加策として、何と言っても「多摩川カヌー駅伝大会」に期待が高まります。現在は、青梅から昭島の約17キロで実施していますが、今後、上流から

中流、さらに河口まで距離を延長すれば、多摩川流域全体を巻き込んだ一大広域連携事業となり、東京のビッグイベントとして認知されることも決して夢ではないと考えています。2020年東京五輪に向けて多摩川が注目され、カヌー駅伝大会で流域全体が盛り上げられ、国内の誘客だけではなく、インバウンドも期待されます。

ドローンによる多摩川の空撮映像も積極的に活用していきます。この映像は、すでにフォーラム公式ホームページで公開しており、今後、多摩川フォーラムの事業活動時に放映していくなど、多くの人々に多摩川の魅力を発信していきます。また、「多摩の物語」の語り活動は、今後、流域各地で開催し、人々の心をゆるく結んでいきたいと思ひます。

10周年を機に制作されたシンボルマークについては、法人会員のアルピン株式会社より、美しい多摩川フォーラム設立10周年を記念して、無償制作のお申し出がありました。シンボルマークのデザインは、各部会で意見交換のうえ、運営委員会にて決定しました。今後、場面に応じて、従来より使用しているロゴマーク、新たに誕生したシンボルマークを使い分け、進化発展するフォーラム活動のPRの一助になればと考えております。



新たに制作されたシンボルマーク

美しい多摩川フォーラム

従来より使用しているロゴマーク

CONCEPT

川の流れを躍動感のあるフォルムで構成し、ラインを3つにすることで、多摩川の「川」の字を表現しました。

この3つのラインは、「笠取山の山頂下の水干」から「東京湾」までの多摩川の全長138キロの流れであり、多摩川の姿をイメージしたシンボルマークです。

美しい多摩川フォーラム役員等一覧(平成30年3月31日現在)

会長	中央大学総合政策学部教授	細野 助博	副会長	山形弁研究家	タニエル・カール
副会長	東京農工大学名誉教授	小倉 紀雄	副会長	青梅信用金庫理事長	平岡 治房
副会長	語り部、大阪芸術大学教授	平野 啓子			

運営委員(行政)

東京都産業労働局観光部長	小沼 博靖
東京都建設局河川部長	東野 寛
東京都建設局西多摩建設事務所長	石坂 弘司
山梨県丹波山村長	鈴木 良教
山梨県小菅村長	鈴木 直美
東京都奥多摩町長	河村 文夫
東京都青梅市長	浜中 啓一
東京都檜原市長	坂本 義次
東京都日の出町長	橋本 聖二
東京都あきる野市長	澤井 敏和
東京都瑞穂町長	杉浦 裕之
東京都羽村市長	並木 心
東京都福生市長	加藤 育男
東京都昭島市長	白井 伸介
東京都立川市長	清水 庄平
東京都八王子市長	石森 孝志
東京都日野市長	大坪 冬彦
東京都国立市長	永見 理夫
東京都国分寺市長	井澤 邦夫
東京都小金井市長	西岡 真一郎
東京都多摩市長	阿部 裕行
東京都稲城市長	高橋 勝浩
東京都府中市長	高野 律雄
東京都調布市長	長友 貴樹
東京都狛江市長	高橋 都彦
東京都世田谷区長	坂坂 展人
東京都大田区長	松原 忠義
神奈川県川崎市	福田 紀彦

監事

多摩ケーブルネットワーク(株)代表取締役社長	館 盛和
北斗理研(株)代表取締役	山崎 眞義

名誉会長

お茶の水女子大学名誉教授	篠塚 英子
--------------	-------

顧問

明治大学公共政策大学院教授	青山 侑
前東京都議会議員	野村 有信
衆議院議員	井上 信治
衆議院議員	長島 昭久
元国土交通事務次官、元復興庁事務次官	峰久 幸義
青梅信用金庫会長	森田 昇

運営委員(民間)

立川商工会議所会頭	佐藤 浩二
青梅商工会議所会頭	小澤 順一郎
東日本旅客鉄道株執行役員八王子支社長	坂本 浩行
京王電鉄株広報部長	古屋 圭子
東京急行電鉄株CSR推進室CSR推進部統括部長	前田 基
小田急電鉄株CSR・広報部長	相沢 喜一郎
森林総合研究所多摩森林科学園園長	吉永 秀一郎
(公財)東京市町村自治調査会常務理事	岸上 隆
(公財)とうきゅう環境財団常務理事事務局長	小野木 喜博
東京都森林組合代表理事組合長	木村 康雄
おうめ水辺の乗校運営協議会会長	渡邊 勇
ふれあい移動水族館館長	山崎 充哲
株キャリア・ママ代表取締役	堤 香苗
(一社)大多摩観光連盟専務理事	野崎 隆晴
株JTBコーポレートセールス法人営業東京多摩支店支店長	山田 圭介
近畿日本ツーリスト(株)首都圏西団体旅行支店支店長	前田 裕彰
クラブツーリズム(株)特別顧問	梶田 隆弘
株はとバス観光バス事業本部企画旅行部長	江澤 伸一
株東急百貨店MD統括室MD企画部部長	武藤 正人
エーザイ(株)執行役員知創部部長	高山 千弘
富国生命保険相互会社立川支社支社長	田崎 利伸
(特非)緑の大地会理事長	浅見 芳雄
中央大学経済学部教授	藪田 雅弘
明星大学理工学部教授	藤村 和正

アドバイザー(行政)

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所長	服部 敦
東京都建設局第二建設事務所長	島津 哲也
東京都建設局南多摩東部建設事務所長	小松 正明
東京都建設局南多摩西部建設事務所長	片岡 正英
東京都建設局北多摩南部建設事務所長	坂口 淳一
東京都建設局北多摩北部建設事務所長	奥秋 聡克

アドバイザー(民間)

元(公財)東京市町村自治調査会常務理事	石井 恒利
(特非)青梅市カヌー協会会長	藤野 強
東京海洋大学客員教授	奥山 文弥
地域史研究者	長島 保
多摩川いかたレース実行委員会実行委員長	鈴木 達雄
浅川潤徳水辺の乗校事務局長	笹木 延吉
東京シティガイド	澤田 貴

(順不同、敬称略)

編集後記

多摩川フォーラムのスキームづくりのヒントになった二宮尊徳の「報徳仕法(疲弊した農村の復興策)」について、最後に一言触れておきます。二宮尊徳とは、幕末期の実践的な農政家・経済思想家として広く知られています。尊徳による「報徳」の教えは、至誠(誠を尽くす心)～勤労(至誠に裏付けられた行動)～分度(身の丈に合った生活)～推譲(分度で生じた余剰を地域に譲り拡大再生産)を通じて、経済と道徳の融合を図り、私利私欲に走ることなく地域貢献をすれば、いずれ自らに還元されると説き、これは実践活動を通じてこそ実現できるとしています。

こうした農村における共同体的な報徳運動は、後の明治時代に、今日の信用金庫の母体として結実していくのです。尊徳の教えこそ、「非営利的」「相互扶助」の精神に裏付けられた協同組織金融機関である信用金庫の理念の源流であり、そして、「フォーラムの各主体が共同体的に連携・協働し、ボランティア精神で裏付けられた活動の一つ一つ丹念に息長く実践していくことにより地域が自立する」という、フォーラムの地域づくり運動のアイデアの源泉となりました。こうしたフォーラムの運動が、全国の地域づくり運動のモデルとして参考になれば幸いです。



—美しい多摩川 フォトコンテスト受賞作品—



美しい多摩川フォーラム事務局
 〒198-8722 東京都青梅市勝沼三丁目65番地 青梅信用金庫 地域貢献部内
 Tel 0428-24-5632 Fax 0428-24-4650 <http://www.tama-river.jp>